

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年11月12日
【四半期会計期間】	第44期第2四半期（自平成30年7月1日 至平成30年9月30日）
【会社名】	株式会社松屋フーズホールディングス （旧会社名 株式会社松屋フーズ）
【英訳名】	MATSUYA FOODS HOLDINGS CO., LTD. （旧英訳名 MATSUYA FOODS CO., LTD.） （注）平成30年6月26日開催の第43期定時株主総会の決議により、平成30年10月1日から会社名及び英訳名を上記のとおり変更いたしました。
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 瓦葺 一利
【本店の所在の場所】	東京都武蔵野市中町1丁目14番5号
【電話番号】	0422-38-1121（代表）
【事務連絡者氏名】	専務取締役 丹沢 紀一郎
【最寄りの連絡場所】	東京都武蔵野市中町1丁目14番5号
【電話番号】	0422-38-1121（代表）
【事務連絡者氏名】	専務取締役 丹沢 紀一郎
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第43期 第2四半期連結 累計期間	第44期 第2四半期連結 累計期間	第43期
会計期間		自平成29年4月1日 至平成29年9月30日	自平成30年4月1日 至平成30年9月30日	自平成29年4月1日 至平成30年3月31日
売上高	(千円)	45,672,868	47,600,944	93,006,081
経常利益	(千円)	2,031,672	1,591,559	4,375,225
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	(千円)	1,188,730	980,207	2,380,852
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	1,181,835	971,955	2,383,131
純資産額	(千円)	38,106,951	39,821,327	39,078,966
総資産額	(千円)	56,680,122	58,622,648	58,302,822
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	62.38	51.44	124.94
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	67.2	67.9	67.0
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	2,429,377	2,589,937	6,723,696
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	2,088,525	2,903,229	4,238,622
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	1,180,370	92,153	2,507,282
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	(千円)	4,801,230	5,210,625	5,623,683

回次		第43期 第2四半期連結 会計期間	第44期 第2四半期連結 会計期間
会計期間		自平成29年7月1日 至平成29年9月30日	自平成30年7月1日 至平成30年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	34.86	28.15

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、第1四半期連結会計期間より、株式会社松屋フーズ分割準備会社を平成30年4月24日に設立したため、連結の範囲に含めておりません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、『税効果会計に係る会計基準』の一部改正（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

(1) 財政状態及び経営成績

当第2四半期連結累計期間は、食材価格や人件費の上昇、為替の変動等により経営環境は一層厳しさを増しております。

このような環境の中で、当社グループは以下のような諸施策を推進し、業容の拡大と充実に積極的に取り組んでまいりました。

新規出店につきましては、第二の主力業態であるとんかつ業態を中心に店舗、とんかつ業態15店舗、牛めし業態8店舗、その他業態4店舗（国内2店舗、海外2店舗）の合計27店舗を出店いたしました。一方で、直営の牛めし業態店2店舗、とんかつ業態1店舗につきましては撤退いたしました。したがって、当第2四半期連結会計期間末の店舗数はFC店を含め、1,151店舗（うちFC6店舗、海外12店舗）となりました。この業態別内訳としては、牛めし業態959店舗、とんかつ業態162店舗、鮎業態6店舗、その他の業態24店舗となっております。

新規出店を除く設備投資につきましては、49店舗の改装（全面改装7店舗、一部改装42店舗）を実施した他、工場生産設備などに投資を行ってまいりました。

商品販売及び販売促進策につきましては、『春のカルビ増量キャンペーン』、創業祭として『カルビ焼肉定食100円引きキャンペーン』等を実施いたしました。また、『松屋復刻メニュー総選挙2018』第1位の「焼き牛めし」復刻販売、新商品として「ごろごろチキンのてりたま丼」「和風タルタルチキン定食」「回鍋肉定食」「ネギだく塩ダレ豚カルビ定食」「茎わさび山形だし牛めし」「ケイジャンチキン定食」「ごろごろチキンのトマトカレー」「茄子とネギの香味醤油ハンバーグ定食」「牛焼肉の旨辛炒め定食」、健康志向メニューとして「定食のライスを湯豆腐に変更可能なサービス」における「さっぱり塩ダレおろし豆腐」等を導入いたしました。また、お弁当予約サイト松弁ネットで、『松弁ポイント』を開始いたしました。

これらの取り組みの結果、当第2四半期連結累計期間の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

財政状態

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は586億22百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億19百万円増加いたしました。

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は188億1百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億22百万円減少いたしました。

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は398億21百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億42百万円増加いたしました。

経営成績

売上高につきましては、既存店売上が前年同期比100.9%と前年を上回ったことに加え、前年度以降の新規出店等による売上増加分が寄与したこと等により、前年同期比4.2%増の476億円となりました。

売上原価につきましては、食材の仕入単価変動等により、原価率が前年同期の32.2%から32.8%に上昇いたしました。

販売費及び一般管理費につきましては、売上高に対する比率が前年同期の63.5%から64.0%と増加いたしました。この要因は、生産性向上等により、人件費の売上高に占める割合が前年同期の35.4%から34.7%と改善した一方、新規出店、改装実施の店舗数増により、人件費以外の経費の売上高に占める割合が、前年同期の28.1%から29.3%と上昇したことによるものであります。なお、当社において重視すべき指標と認識しているF Lコスト（売上原価と人件費の合計。FOODとLABORに係るコスト）の売上高比は、前年同期の67.6%から67.5%へと改善いたしました。

以上の結果、営業利益は前年同期比22.9%減の15億4百万円、経常利益は前年同期比21.7%減の15億91百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比17.5%減の9億80百万円となりました。

なお、当社グループにおいては、飲食事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ4億13百万円減少し、52億10百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は25億89百万円（前年同期は24億29百万円の収入）となりました。

これは「税金等調整前四半期純利益」14億72百万円や、「減価償却費及びその他の償却費」16億84百万円といった資金増加要因があった一方、「法人税等の支払額」9億50百万円といった資金減少要因があったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は29億3百万円（前年同期は20億88百万円の支出）となりました。

これは新規出店・既存店改装や工場生産設備等の設備投資実施による「建設仮勘定の増加及び有形固定資産の取得による支出」32億73百万円や、「店舗賃借仮勘定、敷金及び保証金等の増加による支出」3億47百万円といった資金減少要因があった一方、「店舗賃借仮勘定、敷金及び保証金等の減少による収入」97百万円といった資金増加要因があったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は92百万円（前年同期は11億80百万円の支出）となりました。

これは「短期借入れによる収入」20億円といった資金増加要因があった一方、「長期借入金の返済による支出」15億19百万円や、「リース債務の返済による支出」3億20百万円、「配当金の支払額」2億28百万円といった資金減少要因があったこと等によるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は2百万円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通しについて重要な変更はありません。

(7) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの資本の財源及び資金の流動性について重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	70,000,000
計	70,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成30年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成30年11月12日)	上場金融商品取引所名又は登録 認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	19,063,968	19,063,968	東京証券取引所(市場第一部)	単元株式数100株
計	19,063,968	19,063,968	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成30年7月1日～ 平成30年9月30日	-	19,063,968	-	6,655,932	-	6,963,144

(5) 【大株主の状況】

平成30年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (百株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する 所有株式数の割合(%)
瓦葺 利夫	東京都杉並区	38,468	20.19
有限会社ティケイケイ	東京都武蔵野市中町1丁目14番5号	29,794	15.63
有限会社トゥーイール	東京都武蔵野市中町1丁目14番5号	18,300	9.60
瓦葺 一利	東京都杉並区	9,365	4.91
瓦葺 香	東京都杉並区	7,443	3.91
株式会社商工組合中央金庫	東京都中央区八重洲2丁目10番17号	5,184	2.72
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	3,678	1.93
株式会社SMB C信託銀行(株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	東京都港区西新橋1丁目3番1号	3,110	1.63
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	2,602	1.37
GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	BANKPLASSEN 2,0107 OSLO 1 OSLO 0107 NO (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	2,276	1.19
計	-	120,221	63.09

(注) 大株主の「所有株式数」欄の持株数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 3,438百株

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 1,279百株

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 7,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,043,300	190,433	-
単元未満株式	普通株式 13,068	-	-
発行済株式総数	19,063,968	-	-
総株主の議決権	-	190,433	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、1,300株含まれております。

また、「議決権の数(個)」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数13個が含まれております。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
株式会社松屋フーズ	東京都武蔵野市中町1丁目14番5号	7,600	-	7,600	0.04
計	-	7,600	-	7,600	0.04

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,813,683	7,740,625
受取手形及び売掛金	763,442	817,420
商品及び製品	454,714	432,377
原材料及び貯蔵品	2,374,624	2,517,300
その他	1,124,570	993,254
流動資産合計	13,531,035	12,500,979
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	15,068,023	16,004,717
機械装置及び運搬具(純額)	1,062,982	1,326,549
工具、器具及び備品(純額)	1,577,829	1,767,156
リース資産(純額)	1,731,526	1,515,723
土地	9,279,386	9,279,386
建設仮勘定	425,609	437,120
有形固定資産合計	29,145,358	30,330,654
無形固定資産		
ソフトウェア	183,033	180,455
その他	38,593	25,633
無形固定資産合計	221,627	206,088
投資その他の資産		
投資有価証券	72,056	71,659
敷金及び保証金	12,279,707	12,271,531
長期前払費用	443,060	431,140
店舗賃借仮勘定	1,190,096	1,251,550
繰延税金資産	1,371,978	1,513,732
投資不動産(純額)	511,591	506,129
その他	546,012	548,879
貸倒引当金	9,703	9,697
投資その他の資産合計	15,404,800	15,584,924
固定資産合計	44,771,786	46,121,668
資産合計	58,302,822	58,622,648

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,888,179	2,027,264
短期借入金	89,270	1,985,097
1年内返済予定の長期借入金	2,768,526	2,091,170
未払金	4,117,933	3,698,885
リース債務	626,560	636,142
未払法人税等	1,164,843	910,662
賞与引当金	909,943	933,298
役員賞与引当金	-	707
資産除去債務	-	420
その他	1,394,687	1,161,739
流動負債合計	12,959,943	13,445,387
固定負債		
長期借入金	3,095,904	2,353,420
役員退職慰労引当金	581,100	581,100
リース債務	1,243,352	1,000,730
資産除去債務	1,148,591	1,226,635
繰延税金負債	5,049	6,480
その他	189,915	187,566
固定負債合計	6,263,912	5,355,932
負債合計	19,223,855	18,801,320
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,655,932	6,655,932
資本剰余金	6,963,144	6,963,144
利益剰余金	25,531,282	26,282,811
自己株式	15,227	16,142
株主資本合計	39,135,132	39,885,745
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	875	600
為替換算調整勘定	57,041	65,017
その他の包括利益累計額合計	56,165	64,417
純資産合計	39,078,966	39,821,327
負債純資産合計	58,302,822	58,622,648

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	45,672,868	47,600,944
売上原価	14,698,645	15,632,207
売上総利益	30,974,222	31,968,736
販売費及び一般管理費	1 29,022,105	1 30,463,976
営業利益	1,952,117	1,504,759
営業外収益		
受取利息	12,432	11,189
受取配当金	10,422	1,575
受取賃貸料	126,745	123,122
その他	97,038	97,253
営業外収益合計	246,638	233,139
営業外費用		
支払利息	31,735	22,478
賃貸費用	116,885	108,754
その他	18,461	15,106
営業外費用合計	167,082	146,339
経常利益	2,031,672	1,591,559
特別利益		
固定資産売却益	0	0
受取補償金	-	25,000
収用補償金	3,522	-
その他	914	1,486
特別利益合計	4,436	26,486
特別損失		
固定資産除却損	3,075	10,838
店舗閉鎖損失	12,239	932
固定資産売却損	866	903
減損損失	51,852	132,723
和解金	1,034	50
その他	1,094	-
特別損失合計	70,161	145,447
税金等調整前四半期純利益	1,965,947	1,472,599
法人税、住民税及び事業税	667,632	632,592
法人税等調整額	109,584	140,200
法人税等合計	777,216	492,391
四半期純利益	1,188,730	980,207
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,188,730	980,207

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	1,188,730	980,207
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	195	275
為替換算調整勘定	7,090	7,976
その他の包括利益合計	6,895	8,251
四半期包括利益	1,181,835	971,955
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,181,835	971,955
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,965,947	1,472,599
減価償却費及びその他の償却費	1,565,204	1,684,630
減損損失	51,852	132,723
賞与引当金の増減額(は減少)	82,794	23,435
受取利息及び受取配当金	22,854	12,764
支払利息	31,735	22,478
有形固定資産除売却損益(は益)	506	11,740
店舗閉鎖損失	12,109	932
建設仮勘定・店舗賃借仮勘定からの振替等調整費用	2,356,473	2,453,352
売上債権の増減額(は増加)	113,103	54,338
たな卸資産の増減額(は増加)	347,271	129,577
仕入債務の増減額(は減少)	97,664	139,736
未払消費税等の増減額(は減少)	140,850	234,832
その他	243,514	30,549
小計	3,617,121	3,540,665
法人税等の支払額	1,187,743	950,727
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,429,377	2,589,937
投資活動によるキャッシュ・フロー		
建設仮勘定の増加及び有形固定資産の取得による支出	1,892,997	3,273,394
有形固定資産の売却及び収用等による収入	19,152	4
店舗賃借仮勘定、敷金及び保証金等の増加による支出	300,283	347,857
店舗賃借仮勘定、敷金及び保証金等の減少による収入	117,358	97,910
利息及び配当金の受取額	10,616	1,767
その他	42,371	618,340
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,088,525	2,903,229
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,640,000	2,000,005
短期借入金の返済による支出	752,340	100,000
長期借入れによる収入	-	100,000
長期借入金の返済による支出	1,486,426	1,519,840
リース債務の返済による支出	302,561	320,499
自己株式の取得による支出	133	915
利息の支払額	31,170	22,224
配当金の支払額	247,737	228,678
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,180,370	92,153
現金及び現金同等物に係る換算差額	14,387	7,612
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	853,904	413,057
現金及び現金同等物の期首残高	5,655,134	5,623,683
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,480,123	1,521,025

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間より、株式会社松屋フーズ分割準備会社を平成30年4月24日に設立したため、連結の範囲に含めております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 主に新店出店のための敷金及び保証金等で開店前の店舗に関するもの、並びにこれらと同様の取引で店舗事務所等に関するものであります。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
役員報酬	136,214千円	115,900千円
社員給与	2,627,436	2,788,549
雑給	11,034,407	11,181,350
賞与引当金繰入額	822,824	845,044
役員賞与引当金繰入額	718	695
水道光熱費	2,194,237	2,341,749
減価償却費	1,240,624	1,355,194
地代家賃	4,455,511	4,639,460

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に記載されている科目との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
現金及び預金勘定	7,993,230千円	7,740,625千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	3,192,000	2,530,000
現金及び現金同等物	4,801,230	5,210,625

2 投資活動において建設仮勘定・店舗賃借仮勘定等として一旦支出されたが、その取崩し等の際に費用(機器備品費・少額備品費・賃借手数料・地代家賃等)として計上される場合、キャッシュ・フローに動きがないにもかかわらず、営業活動の税金等調整前四半期純利益はこの分減額されます。このため、この費用分を営業活動によるキャッシュ・フローに加算調整する必要があります。このため、「建設仮勘定・店舗賃借仮勘定からの振替等調整費用」という科目を設定しております。

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	247,737	13	平成29年3月31日	平成29年6月28日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年10月31日 取締役会	普通株式	228,680	12	平成29年9月30日	平成29年12月11日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月26日 定時株主総会	普通株式	228,678	12	平成30年3月31日	平成30年6月27日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年10月31日 取締役会	普通株式	228,675	12	平成30年9月30日	平成30年12月10日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

当社グループにおいては、飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	62円38銭	51円44銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	1,188,730	980,207
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	1,188,730	980,207
普通株式の期中平均株式数(千株)	19,056	19,056

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成30年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....228,675千円

(ロ) 1株当たりの配当金額.....12円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成30年12月10日

(注) 平成30年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年11月7日

株式会社松屋フーズホールディングス

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 公認会計士 中 塚 亨 印
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 佐々田 博信 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社松屋フーズホールディングス（旧会社名 株式会社松屋フーズ）の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社松屋フーズホールディングス（旧会社名 株式会社松屋フーズ）及び連結子会社の平成30年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）1．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。